

新たな産業集積

既存の光電子、集積回路、バイオ、精密機械の産業集積に加え、バイオ医療機材、グリーンエネルギーも積極的に集積を後押し。

バイオ医療機材産業 仕切り直して好調

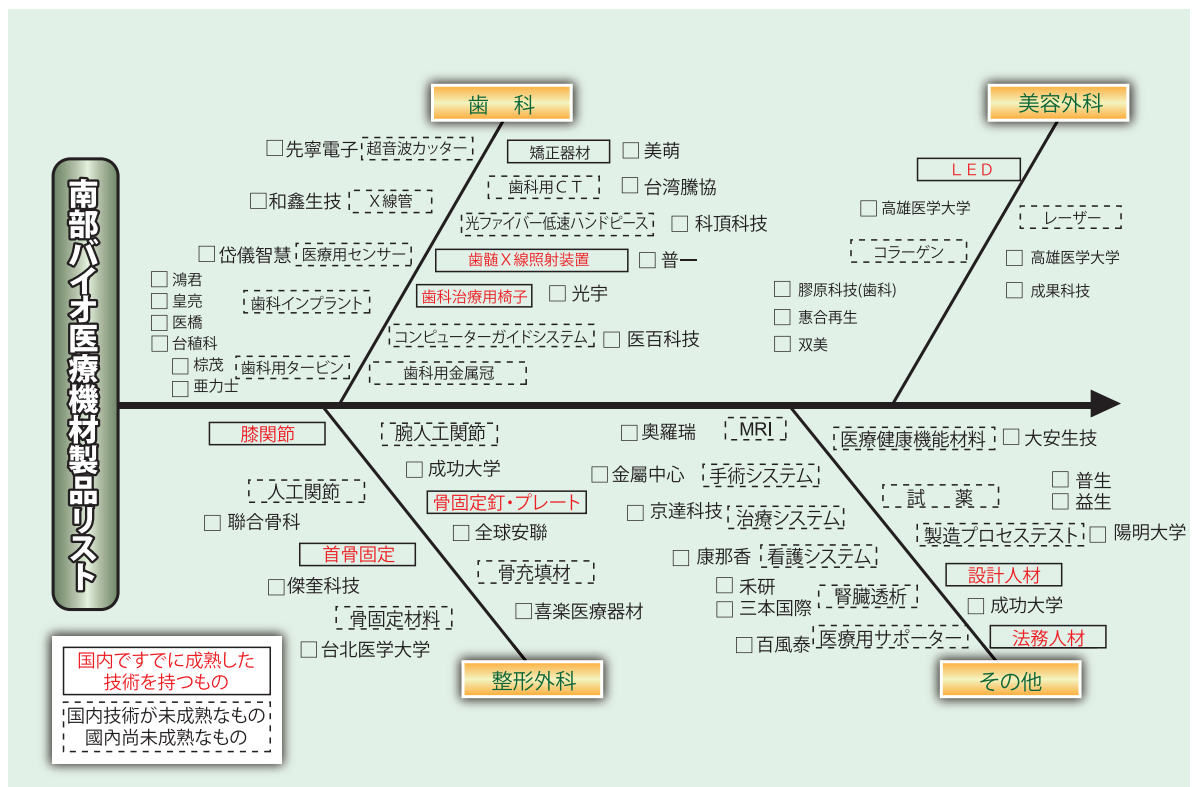
2011年未時点で南科への投資を認可されたバイオ関連企業数は累計で47社、そのうち32社が「南部バイオ医療器材産業集積発展計画」による投資となっています。

2009年以來すでに11.71億元を投じて推進されている「南部バイオ医療器材産業集積発展計画」は、企業、大学、研究機関、医療現場が持つそれぞれの専門と経験の結合、臨床医療で必要とされる高度な医療機材や技術の共同開発、そしてブランド構築や国際的イメージの向上を目指しており、2011年未時点での累計申請件数は91件。すでに75件に対して総額9.5億元の助成が認められています。これまでに南科への進出を認可された32社（投資総額は認可ベースで41億元）には整形外科用医療機材

の国内大手・聯合骨科、インプラント用ハンドピースの大手・科頂科技、血液浄化・分離装置メーカーの三本国際、血液透析機メーカーの商禾研科技など有名企業が名を連ねます。これ以外にも、鴻君科技、全球安聯、医橋科技がインプラント製品で行政院衛生署の認可を取得、皇亮生医ほか3社がGMPを取得、喜楽医材ほか4社が「バイオ新薬産業発展条例」の資格審査に合格するなど、優良企業が数多く入居しています。また、台湾大学、成功大学、陽明大学、金属工業研究開発センターなど11の学術・研究機関が園内に研究開発センターを設置していることで、南科におけるバイオ医療機材産業の集積はさらに厚みを増しています。

集積が進むグリーンエネルギー産業

二酸化炭素削減、地球温暖化防止を目指し、南科管理局では太陽エネルギー、LED、リチウム電池、電動車などグリーンエネルギー



▲南科のバイオ医療器材産業集積



▲南科グリーンエネルギー産業集積

一産業の誘致に力を入れています。太陽エネルギー産業は2011年末までに緑能、達能、合晶など大手13社を誘致。川上の材料から川中の電池、川下のモジュール製品までサプライチェーンも充実しつつあります。LED産業では晶元、晶發、新世紀、光鋇、宏傑、勝一の6社が入居し、これら有力企業の存在が川上、川下メーカーの進出を促すことが期待されています。電動車メーカーとしてはすでに唐栄車輛会社が進出しています。また、太陽エネルギー関連の測定検査能力を強化するため、核能研究所の集

光型太陽能発電高科驗證發展センターも誘致しました。技術支援や検査・測定基準の制定を通じて国内企業の開発体制の底上げを図るとともに、国際基準に沿った検査制度の確立にも大きな役割を担っています。一方、電信技術センターは2010年2月、高雄園区に綠色通訊実験室を設置。2011年9月5日には実験ビルの除幕式が行われました。これは、品質の安全基準認証に必要な時間を短縮することで国内企業の国際競争力を高めようとするものです。